



水稻の中干しについて

中干しは水稻栽培において、稲の生育を調整し、品質の良いお米を収穫するためには重要な作業となります。

中干しは稲の成長を調節するために必要な作業です。中干しの開始が遅れたり、実施をしないと、未熟粒の原因となる無効分けつ（穂にならない）を増加させる原因にもなります。また、登熟期間の養水分の吸収に必要な根の発達も不十分となり、結果的に未熟粒やくず米の発生を助長し、品質・収量の低下を招きます。中干しの重要性を再認識し、米のさらなる品質向上を目指しましょう。

中干し時期

田植えの1か月後くらいで、1株当たりの分けつ本数が16～20本になった頃が目安です。

中干し時期の目安

中山間部(キヌヒカリ) 5月10日田植え	▶▶▶	6月中旬
平坦部(ヒノヒカリ) 6月10日田植え	▶▶▶	7月中旬



中干し適期の様子

畦から条間の土が見えている間に開始します。土が見えなくなるほど茂った頃では遅いです。期間は一般的には7～10日程度です。

中干しの程度

圃場の条件や天候等によって調整が必要です。一般的な圃場では、軽くひび割れができ、歩くと少し足跡ができる程度まで干します。

中干し中の様子



条件による中干しの程度

条 件	強めに干す	弱めに干す
土 性	埴壤土	砂壤土
地 力	肥沃な土	やせた土
水 は け	水はけが悪い	水はけがよい
用 水 量	多い	少ない
生 育 量	過剰	不足
施 肥 量	多い	少ない

強

めが良い圃場

期間を長めにし、やや強めにひびが入る程度まで干します。

弱

めが良い圃場

開始時期を少し遅めにし、小さなひび割れが少しできる程度に干します。

中干しの効果

1. 稲の生育にあわせた水管理ができる。
2. 分けつを抑え土の中に酸素を送り、根を健全にして登熟を良くする。有害なガスを抜き、生育安定化に役立つ。
3. 生育後半の養分吸収や環境条件が良くなる。稲刈りの時期まで排水のよい状態が続くため落水適期まで湛水でき、品質収量が上がる。
4. 稲の収穫後も排水良好で裏作や野菜などの作付けにも有利。



未熟米や
くず米の発生が
減少

中干し後の管理

中干し終了後は、2～3回走り水（田面を水が走る程度で給水を止めること）を行い、根の発生促進や根の健全化に努めましょう。

幼穂形成期以降は、田面を乾かさないように間断灌水で飽水管理（足跡に水が溜まる程度で地表面には水がない状態）と落水を交互に行い水分と酸素の供給を交互に行うことで根をしっかり育てましょう。

また、出穂期前後14日間は、湛水管理を行ってください。

